

# 第1章 推進方策の検討

## 1. 検討委員会の設置

「沖縄県観光バリアフリー化推進事業」全体の方向性を検討する組織として、「検討委員会」を設置し、平成18年度内に3回開催した。委員は沖縄県内在勤・在住者を中心としつつ、同事業者の効果的な推進に資するため、2名の県外委員を加えた構成とした。

### (1) 検討委員会の開催経緯

<第1回> 平成18年5月26日(木)

- ・平成17年度事業の取り組みと、平成18年度観光バリアフリー化推進事業について
- ・観光バリアフリー化の持続的な取り組みの方向性について

<第2回> 平成18年11月13日(月)

- ・平成18年度事業の報告
- ・観光バリアフリー化の持続的な取り組みの方向性について

<第3回> 平成19年2月2日(金)

#### 【報告】

- ・観光バリアフリー化推進事業 事業報告
- ・ケーススタディ地区「八重山ワーキング」について

#### 【検討】

- ・今後の観光バリアフリー化の展開方策について

### (2) 検討委員会委員(順不同・敬称略)

<委員長>

高嶺 豊 琉球大学 法文学部人間科学科 教授

<委員>

山本 誠 飛騨高山東京事務所 代表

中沢 信 (株)バリアフリーカンパニー 代表取締役

小濱 哲 名桜大学大学院 観光環境領域 教授

岩佐 吉郎 名桜大学寄附講座 教授(平成16、17年度 検討委員会委員長)

市ノ澤 武士 日本トランスオーシャン航空(株) 代表取締役社長

(知念 政夫 日本トランスオーシャン航空(株) 営業部 部長)

東 良和 沖縄ツーリスト(株) 代表取締役社長

(寿盛 哲也	沖縄ツーリスト (株) 次長	第 1 回出席)
(岩崎 晃一	沖縄ツーリスト (株) 観光部仕入手配課 課長	第 2 回出席)
白石 武博	(株) カヌチャベイリゾート 代表取締役社長	
洲鎌 孝	(財) 沖縄観光コンベンションビューロー 常務理事	

\*: ( ) 内は代理出席者

〈事務局〉

松本 真一	沖縄県観光商工部 観光交流統括監
仲宗根 辰夫	沖縄県観光商工部観光企画課 課長
慶田 喜美男	沖縄県観光商工部観光企画課 班長
山里 武宏	沖縄県観光商工部観光企画課 主査
吉澤 清良	(財) 日本交通公社研究調査部 主任研究員
高崎 恵子	(財) 日本交通公社研究調査部 研究員

## 2. ワーキンググループ検討会議の設置

平成 16 年度より地域の実情を踏まえ、実現可能性のより高いプロジェクトを検討する場として、検討委員会の下に「ワーキンググループ検討会議」を設置している。委員は民間観光事業者、福祉関係者、民間活動団体（NPO等）、学識経験者等の“実務者クラス”を中心に構成した。

また、昨年度と同様に「意識啓発・人材育成部会」「受入体制整備・旅行促進部会」「情報発信・PR部会」の3部会を設けたが、本年度は継続的な仕組みづくりという点で、特に「意識啓発・人材育成部会」の活動に対して、旅行会社・観光推進団体からのアドバイス、学識経験者からのアドバイスを受ける形で進行した。

### (1) ワーキンググループ検討会議の開催経緯

- ＜第 1 回＞ 平成 18 年 5 月 29 日（月）
  - ・ 平成 18 年度事業の概要説明
  - ・ 平成 19 年度以降の推進体制について
  - ・ 細事業の企画内容の検討
- ＜第 2 回＞ 平成 18 年 11 月 14 日（火）
  - ・ 細事業の進捗状況報告
  - ・ 平成 19 年度以降の推進体制について
- ＜第 3 回＞ 平成 18 年 12 月 20 日（水）
  - ・ 細事業の企画内容と進捗状況報告
  - ・ 平成 19 年度以降の推進体制について

<第4回> 平成19年1月24日(水)

- ・ 細事業の企画内容と進捗状況報告
- ・ 平成19年度以降の推進体制について

#### 細事業 開催日程

細事業名	名称	開催日	開催場所
バリアフリーサポーター 育成事業	第1回(夏季) バリアフリー・セミナー	平成18年6月26日・27日	宮古
		平成18年6月29日・30日	石垣
		平成18年7月3日・4日	名護
		平成18年7月6日・7日	那覇
	第2回(秋季) バリアフリー・セミナー	平成18年10月23日・24日	宮古
		平成18年10月26日・27日	石垣
		平成18年10月28日	八重山商工
		平成18年10月30日・31日	名護
平成18年11月1日・2日		那覇	
バリアフリー情報提供 事業	「誰でも美ら島.NET」 音声ブラウザ対応	平成18年4月1日	—
	「誰でも美ら島.NET」 ダウンロードサービス開始	平成18年8月	—
観光バリアフリー・シンポジウム		平成18年2月14日	那覇

#### (2) ワーキンググループ検討会議委員(順不同・敬称略)

<委員>

##### 【意識啓発・人材育成部会】

親川 修 NPO法人バリアフリーネットワーク会議 事務局長  
 喜久里 美也子 NPO法人脳文庫 代表  
 (NPO法人日本ケアフィットサービス協会・沖縄窓口 代表)

##### 【情報発信・PR部会】

小濱 哲 名桜大学大学院観光環境領域 教授  
 屋良 朝治 (財)沖縄観光コンベンションビューロー観光推進部 部長

#### 【受入体制整備・旅行促進部会】

大城 朝淳            ホテルニューおきなわ 支配人  
栗原 智             (株) 近畿日本ツーリスト沖縄商品開発部商品開発課 課長代理  
田原 清春           (株) ジェイティービー 総務部 グループリーダー

#### 〈アドバイザー〉

岩佐 吉郎           名桜大学寄附講座 教授 (平成 16、17 年度 検討委員会委員長)

#### 〈協力団体・協力者〉

沖縄県社会福祉協議会、沖縄県身体障害者福祉協会、沖縄脊髄損傷者連合会、  
沖縄県視覚障害者福祉協会、沖縄県聴覚障害者協会、北部障害者生活支援センター、  
石垣市障害者生活支援センター、平田観光(株)ほか

#### 〈事務局〉

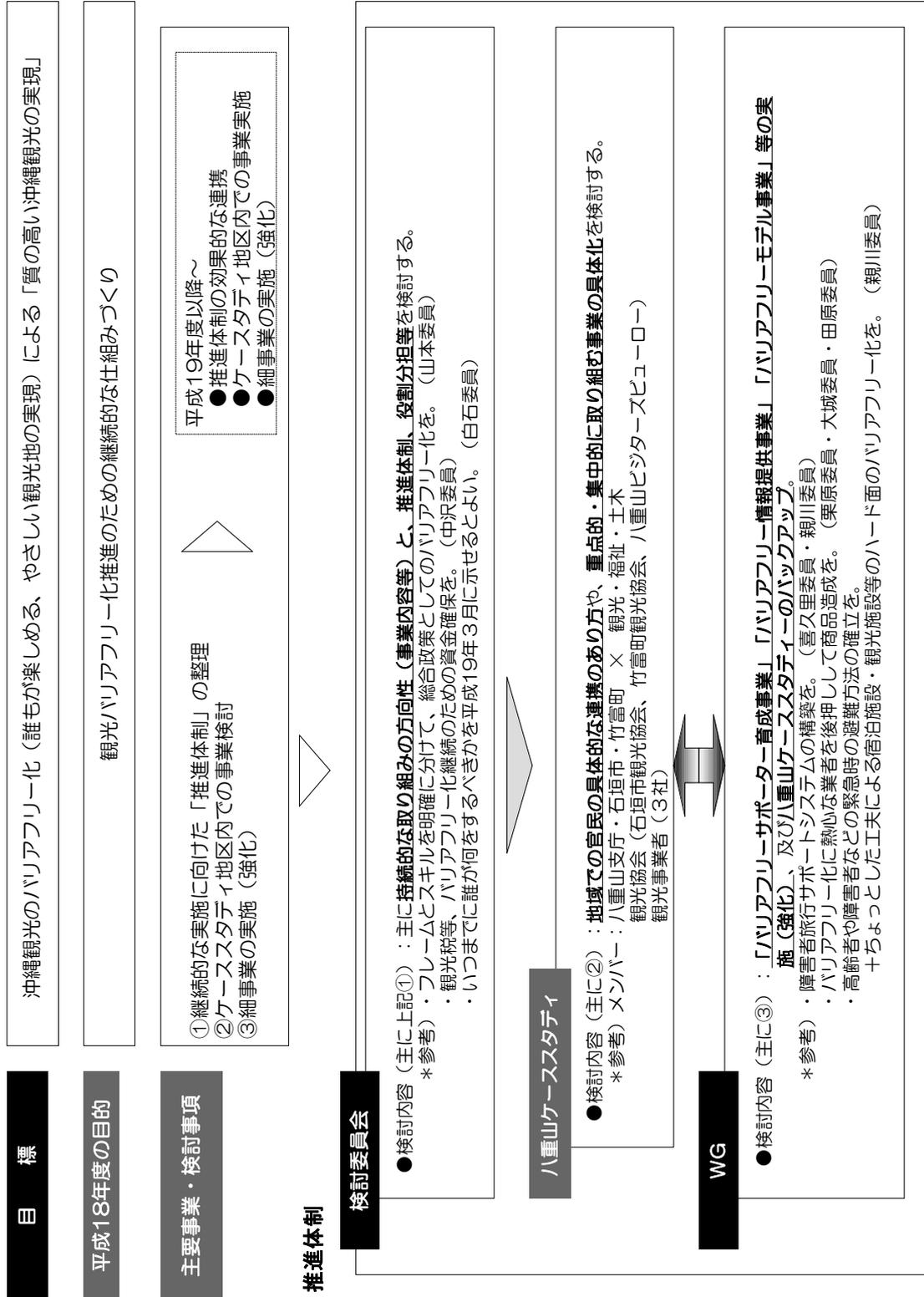
仲宗根 辰夫        沖縄県観光商工部観光企画課 課長  
慶田 喜美男       沖縄県観光商工部観光企画課 班長  
山里 武宏         沖縄県観光商工部観光企画課 主査  
吉澤 清良         (財) 日本交通公社研究調査部 主任研究員  
高崎 恵子         (財) 日本交通公社研究調査部 研究員

### **3. 平成 18 年度観光バリアフリー化推進事業の検討経緯**

前述の検討委員会及びワーキンググループ検討会議に、「八重山ケーススタディ」(\*)を加えた平成 18 年度の観光バリアフリー化推進事業の推進体制、及び、検討の経緯は、それぞれ図 1-1、1-2 の通りである。

\* : 八重山ケーススタディについては、「第 4 章 地域でのケーススタディの実施」を参照。

図 1-1 平成18年度観光バリアフリー化推進事業の推進体制



資料：（財）日本交通公社作成

# 図1-2 平成18年度観光バリアフリー化推進事業の検討経緯

## 事業内容

0-①. 県民や民間事業者の意識啓蒙「シンポジウム」の開催	●バリアフリーサポート育成事業	●基本方針① 沖繩観光のバリアフリー化に対する意識的向上を促進する。
0-②. 「沖縄県観光バリアフリーニューズレター」の発行	●バリアフリー情報提供事業	●基本方針② バリアフリーに関する情報の充実と多様なニーズへの対応。
0-③. 「班大シンポジウム」(対外的PR)の開催	●バリアフリーモーター事業	●基本方針③ 経済的負担を軽減し、観光客の利便性を向上させる。
0-④. 「車いすマーク駐車場キャンペーン」の展開と「条例化」検討(*私休等めませんキャンペーン実行委員会の協賛に協力)	●その他の事業	●基本方針④ 観光客の利便性を向上させるための施策を推進する。
1-1-①. 「接遇プログラム」に基づく「接遇向上セミナー」の開催		
1-1-②. 「接遇ハンドブック」の随時改訂		
1-1-③. 「既存資格」の取得促進		
1-1-④. 「データベース」の調査・充実		
1-1-⑤. 「サイト」の運用開始と利便性向上		
1-1-⑥. 「認知性向上」音声ブラウザ対応		
1-1-⑦. 「車いすトイレマップ」の効果的な活用		
1-2-①. 障害者団体等の「総会誘致」促進など		
2-1-①. 県民による「観光地バリアフリー度チェック」の実施		
2-1-②. 旅行商品「体験プログラム」の開発検討		
2-2-①. 「旅行システム」(介助者供給プログラム)の開発検討		
2-3-①. 高齢者や障害者スポーツ大会の支援(PR)		
3-2-①. 旅客施設及び車両購入のための「融資・助成制度」の検討(導入)		
「検討委員会」の開催		
「3部会」(意識啓蒙・情報・旅行)の設置と当事者・関係部局等の連携強化		

(注)事業名の前に付している番号は、「基本方針」-基本戦略-主要施策との対応を示している。  
 (注)「」は、他の事業と主に推進、あるいは他の事業との調整・連携を図りながら進めていく施策。

## ●目標像 誰もが楽しめる、やさしい観光地(ホスピタリティリゾート)

## 第1回検討委員会会議(5/25)

- (1) 平成17年度事業の取り組みと、平成18年度観光バリアフリー化推進事業について
- (2) 観光バリアフリー化の持続的な取り組みの方向性について
- 全県民の理解と意識の向上について
  - ・セミナー参加者からは事業への理解を得ることができた。今後は、経営者レベル・行政にどう影響を得ていけるかが今後の課題となる。
  - ・バリアフリーの概念について、小中学生に向けたテキストを作成し、教育していくことが必要だろう。
- 八重山ツアーキングについて
  - ・アクセスガイドとして、行政、民間をきちんと巻き込む必要がある。
  - ・行政間の横の連携の局所がどれだけでも連携を図ることができるといい。
- 平成18年度以降の推進体制について
  - ・取次ぎとなるNPOとOCVBが連携し実施として動くこととしよう。
  - ・OCVBが根拠をもって動いていかなければならない。
- PR・広報について
  - ・この事業が県民、国民に認知されるように、具体的に何を行っていくのか見せる必要がある。また、全国から注目を集めていることを県民に広く定期的にメディアと勉強会を開くなどのメディア対策を行うべきである。
- 3年間の事業の成果について
  - ・提言書を作成し、シンポジウムで発表する必要がある。
  - ・バリアフリー推進宣言を行い、賛同する市町村や民間企業を増やしていくべき。

## 第1回ワーキンググループ会議(5/29)

- (1) 平成17年度事業の取り組みと、平成18年度観光バリアフリー化推進事業について
- (2) 観光バリアフリー化の持続的な取り組みの方向性について
- (3) 平成18年度バリアフリーセミナーについて
- 平成18年度以降の推進体制について
  - ・高齢者、障害者本人、その家族から問い合わせがある。寄せ集めていけば、ツアーセンターとして2人の人件費をまかなうことは可能ではないだろうか。
  - ・ツアーセンターが券を発する、旅行者だけでなくユーザーにとっても便利。ハードが整っていないだけでもソフトで対応できている施設であれば、旅行者に自信を持って紹介することができる。
- 今後の事業
  - ・バリアフリーに対する啓発活動を拡大させるべきである。
  - ・動向調査を別の事業として行うべきである。
  - ・行政を対象としたセミナーを開催するべきである。
  - ・バリアフリーの象徴となるイベントを開催するといいたい。
- 八重山ツアーキングについて
  - ・ハード面に課題のある地域で、バリアフリーを成功させることは他の地域にとつてのインパクトは大きい。
- バリアフリーセミナーについて
  - ・(後述セミナー)障害のある当事者がビューインストラクターとして講演を行う。
  - ・サービス介助士の有資格者が資格を取得してからの体験を話す時間を設けていく。
  - ・(ハードセミナー)すぐに取り組める工夫や既存の商品を使ってお金をかけずに取り組めるバリアフリーについて講演を行う。
  - ・せっかく沖縄に旅行に来る高齢者や障害者が強に入ることができないことは大きなストレスとなっている。海浜地域の対応方法を模索したい。

## 第1回やさしい観光地づくりネットワーク会議(6/14)

- (1) 石垣・竹富地域におけるバリアフリー化への取り組み
- 石垣・竹富地域のバリアフリーの現状
  - ・施設整備については、石垣市・福祉のまちづくり条例施設整備マニュアルに基づいて整備を行っている。
  - ・補助については、ハード面でのバリアフリーはまだ厳しい状況である。
  - ・遊歩道整備の設置、バリアフリー一歩の導入により、遊歩道整備のバリアフリー化は進んでいる。
  - ・石垣港離島旅客ターミナルの併用が開始されると、事務所等の設置も解消される予定である。
  - ・障害者生活支援センターをまもなく設置することで、周辺の商店にスロープが設置されるようになった。障害者が出歩くことで無言の啓発となっている。

- 今後の課題
  - ・ハード面だけではバリアフリーに追いついていくことは難しいため、観光関連事業型にはソフト面でのサポートを意図して欲しい。
  - ・障害のある方の目線でのようなニーズがあるのか把握する必要がある。
  - ・すでに民間・行政ともにバリアフリーの取り組みが行われている。今後、一歩ずつ進んでいく必要がある。

●ネットワークメンバー

【行政】  
 ○観光所管  
 沖縄県八重山支庁支庁総務課 観光振興課  
 石垣市企画開発部観光課  
 ○土木所管  
 沖縄総合事務局石垣港湾務事務所  
 沖縄県八重山支庁土木建設課 建設課  
 沖縄県八重山支庁土木建設課 建設課  
 沖縄県八重山支庁土木建設課 建設課  
 石垣市都市建設部港湾課  
 石垣市都市建設部都市計画課  
 竹富町建設課

【民間企業、観光・福祉関係団体等】  
 八重山ビスターズ ビデオロー  
 竹富町観光協会  
 東運船(株)  
 (有)安老観光  
 平田観光(株)  
 八重山観光フェリー(株)  
 遺産管理型NPO法人たきざらん  
 NPO法人ちゅうらネット

第1回バリアフリーセミナー(6/26-7/7)

● 日程・参加者数

開催地	日時	セミナー	参加者	備考
宮古	6月26日	接遇セミナー	11	
	6月27日	ハードセミナー	12	
	6月29日	接遇セミナー	48	6名オプザーバー含む
石垣	6月30日	ハードセミナー	26	
	7月3日	接遇セミナー	37	
名護	7月4日	ハードセミナー	17	
	7月6日	接遇セミナー	33	
那覇	7月7日	ハードセミナー	25	

● 接遇セミナー

それぞれ障害のあるビュアインストラクターが、「障害のあるお客様のニーズ」として講演。

開催地	車いす使用者	氏名	所属
宮古	聴覚障害者	本村 順子	石垣市障害者生活支援センターむゆる館 コーディネーター
	視覚障害者	平良 常	沖縄県視覚障害者福祉協会 理事
	車いす使用者	平田 かおり	沖縄県聴覚障害者連合会 副会長
石垣	聴覚障害者	本村 順子	石垣市障害者生活支援センターむゆる館 コーディネーター
	視覚障害者	平良 常	沖縄県視覚障害者福祉協会 理事
	車いす使用者	平田 かおり	沖縄県聴覚障害者連合会 副会長
名護	聴覚障害者	比嘉 臺	沖縄県視覚障害者協会 会長
	視覚障害者	内藤 喜和子	北都障害者生活支援センターハートモーニング スタッフ
	車いす使用者	荷川取 礼子	沖縄県聴覚障害者連合会 理事
那覇	聴覚障害者	神田 朋子	沖縄県聴覚障害者協会 理事
	視覚障害者	松田 智子	南風原町身障福祉協会 視覚部部長・理事

【参加者の声】

・セミナーに参加して、自分でも気づかない点が多々ある事がわかった。ハンディがある人の立場も少しわかったような気がした。コミュニケーションの様々なグッズの準備が必要であると感じた。今後、高齢者の時代を向かえる我々は、その対応のための色々な施策が必要になってくると思う。健康である自分では気づかなかつた不安や接遇ポイントを知ることが、これからの仕事に活かし、もっと知って積極的にお手伝いできるようなりたい。今回はすごく良い機会になった。ありがとうございました。また、このような機会があれば参加したい。

● ハードセミナー

「簡易な設備・器具によるバリアフリー」

【参加者の声】

・工夫次第では身障者にとって優しい施設になることを学んだ。工夫次第で健康者(私たち)にも優しい施設(場所)になったりすることが多い。ハードより「ハート」を大事に、障害を持った方々と接したい。

「海浜地域におけるバリアフリーと遊び方」

【参加者の声】

・海は常に危険と隣り合わせなので、きちんとした知識と判断力が必要だと思った。また、マンダメニューの提供やライフガードとして守るといった立場にある私たちは、思いやりと、どうしたら楽しんでもらえる等、相手を思う心をもっと養っていかなければならぬと思った。

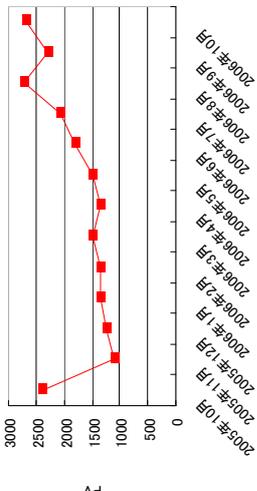


誰でも美ら島.NET

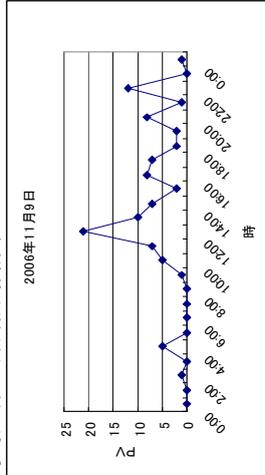
平成18年4月  
平成18年6月  
音声ブラウザ対応画面の開設  
ニュースレターのダウンロード開始  
接遇ハンドブックのダウンロード開始\*  
(\*掲載施設のパスワード保有者のみ可能)



美ら島.NET アクセス数



参考)11月9日(木)利用時間分布



やさしい観光地づくりトップセミナー(9/12)

講師:山本 誠 氏(飛騨高山東京事務所 代表)  
講演:「超高齢社会の地域戦略」  
～ 観光誘致とバリアフリーの推進課題 ～

出席者:石垣市市長、竹富町大盛町長、  
八重山支庁大浜支庁長、  
やさしい観光地づくりネットワークカンパニー

石垣市

・八重山観光は好調であるが、バリアフリーに対応していない箇所はまだある。受け皿体制を整えて、バリアを取り除いていきたい。  
・福祉のみならず、例外的な定めており、じわじわと良くなってきているが、改善するポイントはまだまだあり、ヒントを得ることができた。

竹富町

・難島では、トイレの整備が進んでいないという問題があり、早急に整備を心がけなければならない。  
・難島の遺跡は舗装されていない道路も多く、長期的に工夫していききたい。

八重山支庁

・八重山支庁、障害者、健常者が一緒に生活する社会、暮らし方がテーマになってくると思う。  
・八重山地域は、もともと多額の投資として誰でも迎え入れるホスピタリティを持っている。

第2回やさしい観光地づくりネットワーク会議(9/13)

- (1) 当該会議において検討すべき事業について
- (2) バリアフリートイレの管理・運営の課題
- (3) バリアフリー・セミナーの開催について

○検討すべき事業について

・車いすトイレが故障などで設置の必要性を感じている。バリアフリーに関する専門の窓口の設置の必要性を感じている。  
・障害者からの旅行に関する相談が入ってきている。バリアフリーに関する専門の窓口の設置の必要性を感じている。

○ネットワークについて

・土木関係者に積極的に参加するぐらいの位置づけにしたい。  
・障害者の旅行の受け入れを積極的に進めているが、赤字での対応となっている。行政からのバックアップがなければ、継続して事業を行うことは難しい。  
・ターミナルは、整備途中段階で障害者のモニタリングをした際に、アドハイス等を頂いたが、不都合がでてきた。施設整備についても早い段階で相談できる場所があると良い。

○その他

・住民の意識啓発の必要性を感じている。バリアフリーセミナーを島ごとに行って欲しい。  
・石垣市、竹富町、与那国町では観光パンフレットを一元化し、情報を共有することに取り組んでいる。

○バリアフリーセミナーについて

\* やさしい観光地づくりネットワーク会議の事業の一環として、八重山商工高校での「バリアフリー・セミナー」の開催を決定。

やさしい観光地づくり経営者セミナー(10/17)

講師: 中津 信 氏  
(株式会社 バリアフリーカンパニー 代表取締役)  
講演: 2007年前夜  
ーバリアフリーはビジネスチャンスー

参加者: やさしい観光地づくりメンバー、観光事業者

Q. 八重山のような中小企業ばかりの中で短期的に成果のなるバリアフリーはないか。

A. シニア、障害者が何に困っているのか知る事が基本。マニュアルは最低限のことで、後は個々で考えながら対応していくこと。中小企業は小回りがきくため、ビジネスチャンスを探りやすい。

Q. どこまで対応すればユニバーサル人間といっているのか分からない。

A. 自分にとってどういう部屋が使いやすいんだということお客様が選ぶことができるように部屋の平面図、配置等の情報を開示すればよい。

Q. 地域の事業者の方、観光でこられる障害者の方、高齢の方、妊婦の方や外国人の方が楽しめる場所作りの方のコンサルができればと思うので、そのためには自分達もこれからは勉強してスキルアップを図っていききたい。

A. 障害者自身も専門家として、勉強を重ねねばならない。沖繩でもそのようなプロが育つといい。

●チャサンリゾート石垣の撮影

・チャサンリゾートの改修のポイントの解説。



第3回やさしい観光地づくりネットワーク会議(10/17)

- (1) 優先的に実施する事業について
- (2) ネットワーク体制の構築と持続について

○実施している事業について

・広く事業の理解を得るために、観光が他産業とつながらなければ成り立たないという根本の方向性を示していかなければならない。  
・増収の一円化させ、とらも二層ネットワーク事業と連携させていく。  
・障害者の特性に対する知識があるうえで、各種観光関連企業に対する連携を図ることができるとなれば大変である。またそのような仕組みが、障害者教育に役立っていない。  
・情報収集体制の整備について、台風13号の被害により、八重山地域全体で必要不可欠という認識になっている。行政、民間含めて本格的に取り組んでいこうと決意表明をしたところであり、具体的に話めていこうとしている。

○ネットワーク体制について

・ネットワークについては、観光関連等の構の連携、線の連携、官民の連携も他の地域に比べうまくいっている。バリアフリーについては、対応させるを備ない重要な問題であり、真剣に対応したい。

○石垣県観光客ターミナルについて

・ターミナルを八重山地域の情報提供の中心と考えている。  
(ターミナル内に観光情報流通センター「とらも二層ネットワーク」の設置予定。石垣市とらも二層ネットワーク整備事業)

第2回バリアフリーセミナー(10/23-11/2)

●日程・参加者数

開催地	日時	セミナー	参加者	備考
宮古	10月23日	接遇セミナー	20	
	10月24日	ハードセミナー	8	午後からの参加者3名
	10月26日	ハードセミナー	12	午後からの参加者2名
石垣	10月27日	接遇セミナー	29	
	10月30日	ハードセミナー	10	午後からの参加者5名
名護	10月31日	接遇セミナー	27	
	11月1日	接遇セミナー	25	
那覇	11月2日	ハードセミナー	11	

●接遇セミナー

開催地	氏名	所属	
宮古	重い使用者	平田 かおり	沖縄青銅構傷者連合会 副会長
	聴覚障害者	本村 順子	石垣市障害者生活支援センターコーディネーター
	視覚障害者	平良 常	沖縄県視覚障害者福祉協会 理事
石垣	重い使用者	平田 かおり	沖縄青銅構傷者連合会 副会長
	聴覚障害者	本村 順子	石垣市障害者生活支援センターコーディネーター
	視覚障害者	平良 常	沖縄県視覚障害者福祉協会 理事
名護	重い使用者	平田 かおり	沖縄青銅構傷者連合会 副会長
	聴覚障害者	比嘉 臺	沖縄県聴覚障害者協会 会長
	視覚障害者	内藤 善和子	北部障害者生活支援センターハモニースタッフ
那覇	重い使用者	平田 かおり	沖縄青銅構傷者連合会 副会長
	聴覚障害者	神田 朋子	沖縄県聴覚障害者協会 理事
	視覚障害者	松田 智子	南風原町身障福祉会 視覚部部長・理事

【参加者の声】

・去年に引き続き2度受講させていただきました。せっかく学んだことを生かすために、もみもみにも積極的に参加し、教員になり、大変重たい体験をさせていただきました。今後、ますます観光客の増加に伴い、高齢の方や障害者を持つ方も増えていくと思っております。観光立国として、ぜひ、この事業の継続をお願いしたい。ワチナンチュのホスピタリティで「行きたい場所へ行ける島へ」みんなで作っていきましょ。今日ではありがとうございました。

●ハードセミナー

「簡易な設備・器具によるバリアフリー」

【参加者の声】

・お金をかけずに、氣勢をかけるというお話に感銘を受けた。バリアフリーという言葉だけにとらわれ、完成された形ばかり求めてしまうと、「できることからやる」ということに戻ってしまうのでしたが、様々な写真や資料、講義を通して、手作りでいいのだ、もっと頑張りたいのだ、肝心なのは形ではなくやるかやらないか、なのだと思えた。

☆選ばれるバリアフリーについて

【参加者の声】

・安全面を考慮し、できる限り平常者と同じように海遊びができた。ただだけ感動を分かち合えるか...。障害があるからといって、無理を作らず、身近な物を工夫利用して設備や準備をする方法を学べて良かった。今後、実践に移し、そこが不便で、危険で、どこが良い方法が学んで行こうと思う。



「海浜地域におけるバリアフリーと遊び方」

【参加者の声】

・車イスを砂場で動かすのが難しい。水陸両用車いすだと砂地でも楽に移動ができ、そのまま海の世界に飛び込め、ビュッパした。カヌーでもスウェットを利用するなど、工夫をすればもっともっと障害者の有無に関係なく観光に来て頂けると感じた。

★セミナーについて

・有意義なセミナーなので、今後も継続をお願いしたい。  
・今後ともいろいろなセミナーに参加し、テキストだけでなく、実際に多く触れ合えたらと思う。  
・定期的実施して、数多くの人に理解していく必要が大切だと思ふ。  
・等、多数の継続を望む声もいただいた。

八重山商工高校バリアフリーセミナー(10/28)

\* 今後の八重山観光を担う高校生に、観光におけるバリアフリーの必要性や障害者への理解を広めていくことを目的として実施した。

参加者: 観光コース1、2年生

【参加者の声】

○ビデオインストラクター 平田かおり講師の話を聞いて  
・「障害者には不便なのではなくて自由、自立の話を聞いて、考えが改まった。平田かおりさんの話を聞いて、障害を持つ事は、身体は不自由になるけど、自分で自分ができることでチャレンジできるからって、挑戦心がたくましくなれることだと思えました。どれだけ自分のおかれた状況が変わっても、あきらめなかったかおろさんばかりかと思いました。

○親川講師の話を聞いて

・点字ブロックや、重いの方専用駐車場の話聞いて、自分も点字ブロックの近くに自転車をおきますよーと思います。親にも、駐車場の話をしようと思います。

○セミナーへの感想

・バリアフリーというのは、ふだん何の不自由もなく過ごしている私にとってもある考えのことではないことでした。しかし、今日のセミナーを受けてとても身近にあることだということを強く感じました。高齢者疑似体験やその他障害者への接遇サービスを学ぶことで、これからの観光について考えさせられました。障害者があっても、健全者と変わらないサービスを受けられる旅行にしてほしいので、その接し方などをとって深く学んでいきたいです。今日学んだ事は忘れず、小さな勇気を持っていきたく思います。

・とても勉強になりました。観光コースの私たちだけでなく、商工生全員、他校生も参加させたいです。また、今日習ったことを、今日参加できなかった友達や家族にも教えてあげたいと思います。またいつか、こういう機会があったら友達と一緒でも勉強したいなあと思います。今日のセミナーはすべて勉強になるものばかりで、改めて考えさせられる事も多かったです。平田さんの言った「障害者には不幸なのではなくて自由な人だ」という言葉が頭から離れません。健常高校生も障害者に対する考えを要さないといけないなあと思えます。最後、「どうける、きける、きける、きける」普段私達が何気なくやっている事がこんなに大変で、大切な事なんだということが学べてよかったです。



泡瀬養護学校バリアフリーセミナー(11/6)

講師: 親川修 氏  
(NPO法人 バリアフリーネットワーク会議 事務局長)  
講演: 「選ばれるバリアフリー」  
参加者: 教師、父兄、中等部の児童(おおよそ50人強)  
内容: 当事者を乗せての選ばれる訓練など実践的な体験

### 第2回検討委員会会議(11/13)

【報告事項】平成18年度事業の報告  
 【検討事項】観光バリアフリー化の持続的な取り組みの方向性について

＜改年度以降の取り組み方＞

- ・誰が、いつ、どういった風に進めていくのか議論しなければ実行性のあるものにならない。
- ・逃げるバリアフリーについてツアーセンターとは別に事業を立てていく必要がある。
- ・ツアーセンターは使わないと意味がないので、NPO等でメンテナンスをしていく必要がある。
- ・セミナーについては、市町村からの補助と参加費で継続させることはできないか。
- ・バリアフリーに関する地元のアドバイザーの存在が必要。障害があるだけでなく、専門家を任命することが必要となり、施工から完成まで責任を持って対応できる体制でなければならぬ。
- ※那覇空港を出てタクシー・バス等民間になるとバリアフリーが途切れる。民間とうまく連携する仕組みを作る必要がある。

＜行政について＞

- ・どのおよばアウトライン、ヒントを持っているのが民間に知らしめることは大切である。
- ・民間には、県の全体フローチャートが見えない。全体図の中で自分たちがやらなければならないことが明確化され、進捗の度合いを確認していかなければ進まないだろう。

＜バリアフリーツアーセンター＞

- ・長期計画、事業計画を策定し、何をどこまで取り、最後まで一貫して流れるようにすると良い。
- ・お客様の手書について1箇所取り、最後に一貫して流れるようにすると良い。

＜八重山WGについて＞

- ・セミナー参加者(民間業者)の意識は非常に高まってきている。
- ・行政の意識を高めていくことが今後の課題である。
- ・WGが今後、それぞれの専門家として、アドバイスを行う機関として機能してもらいたい。

### 第3回ワーキンググループ会議(12/20)

【報告事項】「内閣府バリアフリー功労者表彰」の受賞について  
 (1)平田観光、(2)八重山商工高校「私は停めませんキャンペーン」開催予定について  
 (3)「第6回全国障害者芸術・文化祭おきなわ大会」報告

＜セミナーに関して＞

- ・セミナーで色々な波があった。最終年度ということを会場で伝えたら、職場に来てくれたかという声があった。
- ・船舶事業を始めると石垣島リゾート観光が運航前に講習を受けたいということ、県の事業は終わるが、もっとやりたいという熱意を感じているので、課題をもちたいと思っている。

＜障害者芸術祭に関して＞

- ・重い使用者の輸送手段が一番の課題と感じた。重い使用者は荷物が多いため、空港での待機場所の確保が問題となった。
- ・県内の社協の車いす搭載可能な車両を集めてホテル⇨会場⇨ピストン輸送を行った。車いす搭載可能な車両の協力体制はあった。
- ・自家用の車を使って、地元の人しか利用しない飲食店等を紹介し、非常に喜ばれた。
- ・県主催の行事であるにも関わらず、空港に連絡しなかったため、苦情がきた。

【検討事項】

- (1)平成19年度以降の推進体制について(バリアフリーツアーセンター)
- (2)観光バリアフリー化推進事業、バリアフリー・シンポジウム(2/14)について

・シンポジウムではBFBと観光の発展をどのように捉えようかというように展開していくのか話を進めたい。3年間の事業成果としてバリアフリーツアーセンターを立ち上げることを報告したほうがいいだろう。

・事業の積み残しについてはバリアフリーツアーセンターが引き継いでいく、コンソーシアムを立ち上げることは、すぐでも可能である。

・経済産業省のサービス産業支援事業は、先行的なビジネスで最大の目的は産業の創出である。

・バリアフリーツアーセンターの立ち上げにより、障害者の雇用が創出され、ユニバーサルデザインに対応していく人材育成もできる。

・次年度の事業の中に障害者スポーツのキャンプ誘致について組み込むことはできないか。

・旅行業法の問題があるため、アポイントはできない。輸送手段に限られているため、車の手配が絡むとアポイントが難しくなる。

・バリアフリーツアーセンターがワンストップ型を目指すのなら、情報の確実性が必要。お客様に立場になった仕組むを作る必要がある。

・バリアフリーツアーセンターについて、補助器具のレンタルについては、需要があるためビジネスとしてまわっていきと感ずる。

### 第4回やさしい観光地づくりネットワーク会議(1/23)

【報告事項】

- (1)平田観光 平成18年度バリアフリー化推進功労者表彰 内閣府 特命担当大臣表彰 受賞について
- (2)八重山商工高校「重いす駐車庫」に、点字ブロックに、私は停めませんキャンペーンの開催について
- (3)観光バリアフリー・シンポジウムの開催について

＜平成18年度バリアフリー化推進功労者表彰 内閣府特命担当大臣表彰受賞について＞

- ・一事業者が受けたのではなく、市、県等の手助けをもらった。県全体に良い影響が広がるようにしたい。

【検討事項】八重山地域の観光バリアフリー化の方向性

- ・ネットワーク体制の構築と持続について
- ・無料でどこでもチャーター(車いすの貸し出し)ができないか。
- ・障害者旅行の問い合わせが社協等へ来るが、現在は窓口がわからないのでバリアフリーツアーセンターで一元化し情報提供する。
- ・ハンディを抱えた人にやさしい変入れをすることを最大のPRになる。沖縄の代表として八重山がやる。
- ・今後、普及、拡大するためには「八重山 心のふるさと」を提供していく。
- ・民間がモチベーションを保つのが大変という時に、普段、お客様がいない時期に呼び込む。
- ・ネットワークは八重山まちづくりの中で参画してほしい。

【私は停めませんキャンペーンの開催(1/28)】

「私は停めません」キャンペーンを2007年1月28日(日)に本島および石垣市で同時開催した。

石垣市で開催されるキャンペーンは八重山商工高等学校の生徒たちが、セミナー受講後「自分たちで取り組めること」ということで学生の発意によりこのキャンペーンを開催することとなった。

☆このキャンペーンは重いす駐車庫や点字ブロックの必要性を車いす使用者や視覚障害者以外の方々に認識してもらうことを目的に行われる。本活動を通して障害のない人と車いす使用者、視覚障害者が互いに気持ちよく生きていける社会を作るために必要な「共生の意識」を啓発している。

【今後の観光バリアフリー化の展開方策について】

- ・コンサルティング・レンタルなど事業の中の対面を伴う部分については、対面に見合ったサービスを提供する必要がある。
- ・バリアフリーツアーセンターはNPOで運営していくが、収支については問題である。県がしっかりバックアップして欲しい。
- ・民間活動の中でビジネスモデルとしてやっていけるほどマーケットは育成されていない。もう少し行政の支援を得ることはできないのだろうか。
- ・国のVOCにうまく位置付けて構築していくべきである。
- ・農林・福祉など横断した大きな枠組みの中で動きを作る必要があるだろう。

・バリアフリー宣言は、今後のバリアフリー化事業を担保するためにもしっかり必要がある。

・3年間で事業は確実に進んでいる。民間活動が進んでいかなければならないだろう。

・この事業が動けば全国でも先駆けた活動となる。

### 第3回ワーキンググループ会議(12/20)

【報告事項】「内閣府バリアフリー功労者表彰」の受賞について  
 (1)平田観光、(2)八重山商工高校「私は停めませんキャンペーン」開催予定について  
 (3)「第6回全国障害者芸術・文化祭おきなわ大会」報告

＜セミナーに関して＞

- ・セミナーで色々な波があった。最終年度ということを会場で伝えたら、職場に来てくれたかという声があった。
- ・船舶事業を始めると石垣島リゾート観光が運航前に講習を受けたいということ、県の事業は終わるが、もっとやりたいという熱意を感じているので、課題をもちたいと思っている。

＜障害者芸術祭に関して＞

- ・重い使用者の輸送手段が一番の課題と感じた。重い使用者は荷物が多いため、空港での待機場所の確保が問題となった。
- ・県内の社協の車いす搭載可能な車両を集めてホテル⇨会場⇨ピストン輸送を行った。車いす搭載可能な車両の協力体制はあった。
- ・自家用の車を使って、地元の人しか利用しない飲食店等を紹介し、非常に喜ばれた。
- ・県主催の行事であるにも関わらず、空港に連絡しなかったため、苦情がきた。

【検討事項】

- (1)平成19年度以降の推進体制について(バリアフリーツアーセンター)
- (2)観光バリアフリー化推進事業、バリアフリー・シンポジウム(2/14)について

・シンポジウムではBFBと観光の発展をどのように捉えようかというように展開していくのか話を進めたい。3年間の事業成果としてバリアフリーツアーセンターを立ち上げることを報告したほうがいいだろう。

・事業の積み残しについてはバリアフリーツアーセンターが引き継いでいく、コンソーシアムを立ち上げることは、すぐでも可能である。

・経済産業省のサービス産業支援事業は、先行的なビジネスで最大の目的は産業の創出である。

・バリアフリーツアーセンターの立ち上げにより、障害者の雇用が創出され、ユニバーサルデザインに対応していく人材育成もできる。

・次年度の事業の中に障害者スポーツのキャンプ誘致について組み込むことはできないか。

・旅行業法の問題があるため、アポイントはできない。輸送手段に限られているため、車の手配が絡むとアポイントが難しくなる。

・バリアフリーツアーセンターがワンストップ型を目指すのなら、情報の確実性が必要。お客様に立場になった仕組むを作る必要がある。

・バリアフリーツアーセンターについて、補助器具のレンタルについては、需要があるためビジネスとしてまわっていきと感ずる。

### 第4回ワーキンググループ会議(1/24)

【報告事項】

- (1)観光バリアフリー化推進事業、バリアフリー・シンポジウム(2/14)について
- (2)平成19年度以降の推進体制について(バリアフリーツアーセンター)

・シンポジウムで「宣言」をして、それにより事業をイメーションしていくことが必要になる。

・「経済産業省」は誰にするのか、県内へのアピールとして「わたしは…」にする。

・「経済産業省」は誰にするのか、県内へのアピールとして「わたしは…」にする。

・ホテル21世紀は設計士を交えてバリアフリーのアドバイスをを行った。古いホテルであるが生き残りをかけてバリアフリールームを設置することになった。安価ででき、使い勝手の良いBFRルームの提案を行った。

・重いすレンタルは、かなり需要があると感じるが、どこかで縛りをして、お金を取った方が良いが金額の設定がわからない。

・沖縄のサービス助士有資格者の有志で「観光部会」を立ち上げた。今後の活動の予定としては現場で困ったこと、困りそうなこと、レンタルしてほしいもの等の情報収集をしていく。

・サービス助士の派遣をしたいたが、派遣業のハードルが高い。紹介業でやれるか可能性を探っている。

### 平田観光、内閣府「バリアフリー化推進功労者表彰」受賞(12/7)

12月7日に、全国で平田観光株式会社を含む9つの法人や団体が平成18年度の内閣府「バリアフリー化推進功労者表彰」を受賞した。

平田観光は、重いすを8台搭載できるリフトバスの導入などのハード面や福祉関係資格取得を社内内で推進するソフト面などの強化(現在、福祉有資格者14名)で、観光バリアフリー化に努めた功績が認められた。

沖縄県内では最初で最後の受賞となった。



内閣府総務官邸にて高市大臣と記念撮影  
 右から大津康昭(石垣市長) 代表取締役社長  
 平田三三(平田観光) 代表取締役夜社長  
 高市早苗(内閣府特命担当大臣) 代表  
 泉平美史(平田観光) 取締役社長(兼妻)  
 (敬称略)